

# あいさい 通信

発行：あいさいボランティアガイドの会 編集：若山

愛西市森川町井桁西 27 愛西市観光協会内

電話：0567-55-9993

## H<sub>2</sub>O 思い出がいっぱい



今年（2019年）、50歳ぐらいになる世代には、H<sub>2</sub>Oと言うと「思い出がいっぱい」という楽曲が頭に浮かびます。この場合のH<sub>2</sub>Oとはフォークデュオの名前。1983年に放映されたテレビアニメ『みゆき』の主題歌「思い出がいっぱい」を歌っていました。

今年は5月1日に新しい天皇陛下が即位され、新しい年号に変わる年です。今から50年前、1969年7月20日にアメリカのアポロ11号が人類初の月面着陸に成功しました。その半年前のクリスマスイブ（1968年12月24日）、アポロ8号が初めて月の周回軌道を飛行した時、月面から地球が昇る“地球の出”の写真

を撮影しました。漆黒の宇宙に浮かぶ小さな美しい青い地球、この写真は、写真雑誌ライフ誌で組まれた特集「世界を変えた100枚の写真」にも選ばれ、最も環境問題に影響を与えた一枚。それまで、大地として見ていた地球が、宇宙の中では小さな星にしかすぎないと人々に与えた衝撃は大きなものでした。

地球表面の71%は海であり、そのほとんどが水、水の惑星と言われる由縁です。大量の水は赤色を吸収するため青く見えます。人間の体も約60%が水、毎日平均約2.5ℓを排出し吸収する必要があります。人類は18世紀末まで、中国の五行説のように万物は火・水・木・金・土の5種類の元素からなり、5種類の元素は互いに影響を与え合い、その生滅盛衰によって天地万物が変化し、循環すると考えていました。

19世紀になって、水（H<sub>2</sub>O）はH（水素原子）2個とO（酸素原子）1個が結合している分子ということがわかり、水は近代化学発展のきっかけにもなります。その水の化学式がH<sub>2</sub>Oです。新しい年（2019年）は、水（H<sub>2</sub>O）との関わり、歴史について考えてみるのも良いかもしれません。 <2面に続く>

# H<sub>2</sub>O 思い出がいっぱい

<1面より> 春になって、雪が溶けて、川となって流れていきます。地球の水は、太陽エネルギーを主因として、固相(氷)・液相(水)・気相(水蒸気)間で相互に状態変化しながら、地球上を絶えず循環しています。また、この循環の過程で地球表面の熱移動や浸食・運搬・堆積などの地形を形成する作用をしています。この水の大循環が気象であり、環境問題です。水の思い出は良いことばかりではありません。今年(2019年)は亥年、亥年は自然災害が多い年と言われます。1995年の阪神淡路大震災、1983年の59豪雪、1959年の伊勢湾台風、1947年のカスリーン台風、1923年の関東大震災などです。

愛西市は1959(昭和34)年の伊勢湾台風から今年は60年、色々な事業が予定されています。過去を見つめ直し、未来へ思い出を残せる年になると良いです。

## まっさかうし



松阪と言えば松阪牛、普通「まつざかぎゅう」と何気なく読んでいますが、現地では「まっさかうし」と言うそうです。2月23日、あいさいボランティアガイドの会 研修旅行として松阪市を視察しました。ただ、人口16万人の三重県中核都市を一日で視察することは出来ません。松阪市内には、松阪牛の名店だけでなく、本居宣長記念館、松浦武四郎記念館、小津安二郎青春館などもあります。今回は現地ボランティアガイドの会

との交流を通し、視察先の的を絞り、街の核となる戦国武将の蒲生氏郷が築いた松坂城跡、三越百貨店を興した松坂商人・三井高利を輩出した古い町並みなど、普段の松阪市中心街を視察しました。

## あいさいフェスティバルでの屏風展示



1月27日文化会館において、第5回あいさいフェスティバルが開催されました。その中で、愛西市教育委員会の職員とボランティアガイドの会メンバーにより屏風展を開催し、イギリスにある大英博物館が所蔵する「津島祭礼図屏風」の高精細複製品を展示し、多くの方に見学していただきました。

たまたま、大英博物館で本物を見た人も来られ、本物には釘の跡のような小さな穴があり、どのように復元されているかが話題となりました。一緒に探すと、高精細複製品上に穴写真が明瞭に見つかり、案内していた私たちも驚きました。

## ★祝★愛西市文化財指定 西條町の木造勝軍延命地蔵菩薩立像

2月15日（金）、愛西市西條町の木造勝軍延命地蔵菩薩立像が愛西市の文化財に指定され、愛西市役所で平尾教育長より西條町総代 後藤様に『指定書』が授与されました。

毎年2月、勝軍延命地蔵が安置されている地蔵堂では、餅投げが実施されていますが、今年は指定を記念して2月24日（日）午後、法要後の4時半から盛大に開催されました。

なお、市の文化財に指定された勝軍延命地

蔵立像は、17年毎の御開帳時にしか公開されません。

この「勝軍延命地蔵」という名称は、全国に3体しか確認されていない貴重なもので、また、甲冑を付け袈裟をまとった姿で装飾されているお姿から、江戸時代中期に制作されたと推定されています。文化財指定には、一緒に保存されている棟札や縁起なども付属されています。

仏像写真は前回の御開帳時（2018年9月）、餅投げの写真は2月24日に撮影したものです。

## 八開地区のオビシャ

2月10日（日）、二子町定納の白山神社でオビシャが開催されました。今年は境内も整備され、例年通りの神事、餅投げが実施されていました。定納のオビシャは別名ゴミカケ祭とも言われ、高い櫓から投げられる餅を拾おうとする参拝者に、周囲から枯れ葉や砂をかけられます。福を得ようとするには困難がつきものです。（右写真）

ところで、ここ数年オビシャを参拝してきて、定納のオビシャが元服（成人式）祝いであることは、特別であることがわかってきました。



川北町、江西町、元赤目町、給父町など八開地区の他の町々でも毎年この時期に氏神の神社でオビシャが開催されています。ただ、元々のオビシャは、厄年の人が主役となる厄祓い祈願の神事と餅投げでした。写真は2月17日に開催された江西町神明社でのオビシャ実施状況です。

## 新春神事 勝幡神社 オコワ祭

2月20日は旧暦1月15日で満月。しかも、今年一年間で最も地球との距離が近くなり、最も大きく眺められる、いわゆるスーパームーンでした。あいにく、雨天で名月を拝むことは出来ませんでした。ただ、スーパームーンは、海の潮にも影響し、今年一年間で最も干満潮差（大潮）が大きくなり、満潮時には、愛西市の木曾川でも川いっぱいになり満水となりました。

この季節、新春行事が続き、3月7日には津島市の津島神社で開扉祭（通称・オミト祭、旧暦節分）、10日には勝幡町の勝幡神社他でオコワ祭が開催されます。

オコワ祭では、勝幡神社で実施される樽を石にぶつける神事が有名ですが、朝、勝幡町内の代表宅から勝幡神社へ向かう奉納品を運ぶ行列も伝統的な行事風景ですので、是非見学下さい。

## ～ 愛西市周辺の観光 今後の予定 ～

- ・3月 7日(木) 19:00頃～ 津島神社 開扉祭
- ・3月10日(日) 9:30頃～ 勝幡オコワ祭(於：勝幡町)
- ・3月23日(土) 木曾川観光船運航開始(3月4日(月)予約受付開始)

## V G 3月定例会の予定

集合時間：3月17日(日)9時～ 集合場所：愛西市文化会館  
内 容：2019年の事業について

◇2月定例会(2月17日(日)9時～12時、文化会館、29人出席)議事録

### 1) 連絡事項：

- ①あいさいフェスティバル協力お礼など愛西市観光協会の平野事務局長挨拶
- ②愛西市中央図書館主催 歴史・文化講座「まち歩き事業」について、2019年度春の予定期日と行程概要について案内、詳細は今後の例会で詰めていく。
- ③次年度の会員継続事務処理について説明した。
- ④西條町の勝軍延命地蔵尊が市の文化財に指定された。
- ⑤八開地区オビシヤの日程・内容について案内した。

### 2) 相談事項

- ・第5回あいさいフェスティバル、第2回研修旅行について意見交換した。

### 3) その他

観光船部会、役員会を実施しました。  
役員会での議事は、総会まで議論を続ける。



あいさいさん